

第6学年*組 国語科学習指導案

指導者 宮内 ゆか
R5研修センター長期研修

1 単元名 筆者の伝え方のひみつを見つけて、日本文化を紹介するリーフレットを作ろう

2 単元の目標

- (1) 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。 [知識及び技能] (1)ク
 (2) 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 [思考力、判断力、表現力等] B (1)エ
 (3) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C (1)ウ
 (4) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

3 本単元における言語活動

「『鳥獣戯画』を読む」を読んだ筆者の表現や構成の工夫を生かして、ALTに日本文化の魅力を伝えるリーフレットを作成する。 (関連：[思考力、判断力、表現力等] B(1)エ、C(1)ウ)

4 単元(題材)の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。((1)ク)	①「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)エ) ②「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ)	①粘り強く必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしながら読み、今までの学習を生かしてリーフレットを書こうとしている。

5 単元について

(1) 教材観

本単元は「『鳥獣戯画』を読む」、「調べた情報の使い方」、「日本文化を発信しよう」の3つの教材で構成された複合単元である。「『鳥獣戯画』を読む」で筆者の表現の工夫を捉えて読み、そこで学んだ表現の工夫や論の進め方を活用しながら、複数の本やインターネットで調べたことをもとに自分の伝えたいことを書くことをねらいとしている。「『鳥獣戯画』を読む」は「鳥獣人物戯画絵巻」甲巻という日本文化を紹介する文章であり、筆者である高畑勲の「鳥獣戯画」へのものの見方や考え方がよく伝わる教材である。読み手の興味を引く豊かな表現や図の提示の仕方、論の進め方などの工夫を用いて書かれており、児童が自分の表現に生かすための工夫を読み取るのに適した教材であると言える。本単元では、筆者の伝え方の工夫を生かして、日本文化の魅力を伝えるリーフレットを作成するという言語活動を設定した。これらの活動を通して、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりして読み、自分の考えが伝わるように書く力を育てることができると考える。

(2) 児童観

本学級の児童に対し、目的に応じて必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりして読み、自分の考えが伝わるように書く力に関する実態調査(令和5年*月*日実施、第6学年*組

*人)を行った。必要な情報を見付けて読む問題(3問)の正解が1問以下の児童は*人で、論の進め方を考えて読む問題(3問)の正解が1問以下の児童は、*人であった。また、自分の考えが伝わるように書く問題では、図を適切に用いていない児童は*人、引用を適切に用いていない児童は*人であった。この結果から、本学級の児童は、文章と図表の結び付きや論の進め方を考えて読むことや、引用や図等を用いて自分の考えを書くことが不十分であると分かった。これは、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりして読むための手立てや、引用したり、図表などを用いたりして書くための手立てが不足していたことが原因であると考えられる。

(3) 指導観

本単元では、小学校第6学年「日本文化を発信しよう」の学習において、教材「『鳥獣戯画』を読む」で学んだ表現の工夫を生かしてALTの先生に日本文化を紹介するリーフレットを作成するという言語活動を設定する。まず、書くために書き方と読み方を学ぶという意識をもたせるため、導入でリーフレットを作成し、児童の困り感から単元の学習課題を設定していく。次に、「書くこと」の学習として、調べた情報の引用や、図や写真の活用の仕方を学び、「書き方お助けシート」を使ってリーフレットを修正する。「読むこと」の学習では、まず、教材の面白さを味わい、筆者の工夫を自分の表現に生かすことができるか話し合う。次に、ICTを活用し、図と段落カードを並べ替えたり、事実と意見を結び付けたりという児童の気付きを促す活動を通して、表現の工夫を読み取り、「伝え方のひみつブック」にまとめる。それを自分の表現にどう生かすか見直したり、友達と交流したりして、日本文化の魅力がより伝わるリーフレットを作成する。このように、「読むこと」と「書くこと」の関連を生かした単元構成の工夫をすることで、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりして読み、自分の考えが伝わるように書く力を育てていきたい。

6 単元(題材)の指導計画(12時間扱い) ○は指導に生かす評価場面、◎は記録に残す評価場面

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価方法・留意点等
1	1 ・ 2	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の授業を受け、ALTの先生方に日本文化を伝えるリーフレット作りの続きを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>課題 日本文化の魅力が伝わるリーフレットにするためにはどうしたらよいだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・リーフレットを作ってきて疑問に思ったことや知りたいことなどを話し合う。 ・話し合いから出た児童の疑問や困り感などを基に単元の学習課題を設定する。 ・児童のリーフレット作成の疑問点や知りたいこと、困り感を整理し、リーフレット完成までに必要な学習課題と順番を考え、計画を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>まとめ 読み手にとって興味をもちやすく、読みやすい表現や構成にする。</p> </div>				<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の授業を受け、ALTの先生方に日本文化を紹介するリーフレット作りの続きを行うことを伝える。 ・グループで話し合ったことをクラスで共有し、より魅力が伝わるのはどんなリーフレットかを話し合うことで、学習課題を設定していくことができるようにする。 ・疑問点や知りたいこと、困り感から計画を立てることで書くために知りたい情報を学ぶという目的意識をもてるようにする。 <p>○ 態①：見通しをもって学習課題を設定しようとしているか見取り、つまづいている児童には、読み手の興味を引く工夫や、書き手の考えを伝える工夫にはこれまでどんなものがあったか想起させ、よりよいリーフレットとはどんなものか考えるよう促す。 【ノート】</p>
2	3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>課題 調べた情報を正しく用いるためにはどうしたらよいだろう。</p> </div>				<ul style="list-style-type: none"> ・「」を外して情報の全てを引用したリーフレットと調べた情報との比較を通して、調べた情報を

		<ul style="list-style-type: none"> 情報の全てを引用したリーフレットと、調べ情報を読み比べて気付いたことを話し合う。 引用には「」を用いることを振り返り、調べたことを自分の言葉でまとめ直すこととの違いについて知る。 リーフレットを見直し、正しく引用することができるよう修正する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>まとめ 引用をするときは「」をつけてそのまま書き、必要な分だけにする。調べたことは、自分で要約して使う。</p> </div>	○	<p>そのまま写してしまっていることを気付くことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べた情報を引用する時には「」を使い、まとめて記述したいときには、要約することを伝える。 <p>思①：自分のリーフレットを見直し、調べた情報を正しく引用して修正することができるか見取り、つまりきが見られる児童には、「書き方お助けシート」を使って確認しながら見直すよう促す。</p> <p>【観察、リーフレット】</p>
4 検証授業 ①	<p>目標：「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。</p> <p>1 学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>課題 図や写真を使って分かりやすく伝えるためにはどうしたらよいのだろう。</p> </div> <p>2 文章と結び付く図が示されたカードと、選んだ文化に関する図が示されたカードを読み比べ、違いについて考える。</p> <p>3 2枚のカードを比べ、図を効果的に用いるにはどうしたらよいか話し合う。</p> <p>4 自分のリーフレットを見直し、説明に合った図や写真を選択したり、図や写真を説明したりしながら修正する。</p> <p>5 ペアで交流し、どこを直したのか説明し合い、アドバイスし合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>まとめ 文章の理解を助けるために、文章に合った図や写真を選択して、説明する。</p> </div> <p>6 学習を振り返る。</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> 学習計画をもとにこれまでの学習を振り返り、自分の表現に生かすために本文を読むことを確認する。 ロイロノートを使って、文章と結び付く図が示されたカードと、選んだ文化に関する図が示されたカードを提示することで、伝えたいことにあった図や写真を選び、自分の考えに説得力をもたせる必要があることに気付くことができるようにする。 実態調査で使った自分のカードを振り返ることで、図を効果的に用いるにはどうすればよかったか気付くことができるようにする。 <p>思①：引用したり、図や写真を用いたりしながらリーフレットを修正している。</p> <p>【観察、リーフレット、振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「書き方お助けシート」を使いながら見直しや修正をすることができるようにする。 どこをどのように工夫したのか説明し合うことで、推敲する観点を明確にする。 	
3	5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>課題 『鳥獣戯画』を読むのおもしろさはどのようなところだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 教材 『鳥獣戯画』を読むを読んでおもしろいと思ったことをノートに書く。 教材のおもしろさについて、どうしてそう感じるのか理由を話し合う。 教材のおもしろさからどのようにリーフレット作りに生かしていけばいいのか疑問を出し合い、計画を立てる。 		<ul style="list-style-type: none"> 鳥獣人物戯画のレプリカを見せ、平安時代に成立した絵巻物であること、この絵巻物を説明した文章があることを紹介する。 おもしろさの理由を考え、話し合うことで、自分の表現に生かすことができるかを考える手掛かりになるようにする。 計画を立て、リーフレット作りに生かすために読むという目的意識をもてるようにする。

	<p>まとめ 『鳥獣戯画』を読む」のおもしろさは、読み手の興味を引く表現や図の示し方の工夫である。</p>			○	<p>態①：範読を聞いたり、自分で繰り返し読み返したりしながら、おもしろさを見つけて書くことが不十分である児童を見取り、自分のリーフレットとの違いを比較しながら読むよう助言する。 【観察、ノート、振り返り】</p>
6	<p>課題 筆者の考えを読み手に伝わりやすくするための図の示し方のひみつはどのようなことだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートを使い、図と合う段落カードを見付け、並べ替える。 ・『鳥獣戯画』を読む」には何匹の蛙と兎が出てくるのか話し合う。 <p>まとめ 筆者は読み手に伝わりやすくするために、図を二枚に分けたり、並べ方を考えたりして工夫している。</p>			○	<ul style="list-style-type: none"> ・図と合う段落カードを並べ替えることで、図が文章と結び付けられており、効果的に用いられていることに気付くことができるようにする。 ・何匹の蛙と兎が出てくるかを話し合うことで、一つの絵巻物を分けて説明することのよさに気付くことができるようにする。 <p>思②：図と文章とを結び付ける工夫を読み取ることができているかを見取り、つまずいている児童には話合いで出てきたキーワードを提示することで、まとめとして整理できるようにする。 【伝え方のひみつブック、ノート】</p>
7	<p>課題 筆者の考えを読み手に伝わりやすくするための表現のひみつはどのようなことだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文を一般的な文章に書き換えたものを読み、筆者の表現の工夫を考える。 ・表現の工夫をすることでどのような効果があるのか話し合う。 <p>まとめ 筆者は考えを読み手に伝わりやすくするために、語りかけるように表現している。また、実況中継のように表現したり、体言止めを使ったりすることでリズムをよくしている。</p>			○	<ul style="list-style-type: none"> ・本文を一般的な文章に書き換えたものを比較して読むことで、表現の工夫について気付くことができるようにする。 ・表現の工夫によって、どのような効果があるのかを話し合うことで書き手の立場としての読み方ができるようにする。 <p>知①：語りかけや実況中継のような言い表し方や体言止めなど表現の工夫に気付くことができるかを見取り、つまずいている児童には話合いで出てきたキーワードを提示することで、まとめとして整理できるようにする。 【伝え方のひみつブック、ノート】</p>
8	<p>課題 説得力をもたせるために筆者が文の書き方でしているひみつはどのようなことだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートを使い、意見カードに対して結び付く事実カードはどれか並べ替える。 ・意見のカードと事実カードが結び付く理由や、2種類のカードが分かれている観点について話し合う。 			○	<ul style="list-style-type: none"> ・カードの文章が意見か事実か示さずに活動に取り組みさせることで、後半の活動でどのような観点を分けているのか話し合うことができるようにする。 ・文をよく読み、2枚のカードが結び付く理由について、根拠をもとに話し合うよう助言する。 <p>思②：筆者が自分の考えを伝えるために事実と意見を区別して書いていることを読み取</p>

		<p>まとめ 筆者は説得力を持たせるために、事実と意見を区別して書いている。事実は意見を支えている。</p>			<p>ることができているか見取り、不十分である児童には教材の文章を意見と事実とで色分けしたヒントカードを提示して支援する。</p> <p>【伝え方のひみつブック、ノート】</p>
9		<p>課題 筆者の考えを読み手に伝わりやすくするための文章構成のひみつはどのようなことだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートを使い、筆者が最も伝えたい段落を見付ける。 ・筆者の伝えたいことが書かれている段落が2つあることから、教材の文章の構造はどうなっているか考え、話し合う。 ・「伝え方のひみつブック」をもとにリーフレットを見直し、修正する。 <p>まとめ 筆者の考えを読み手に伝わりやすくするために大事なことを2段階で伝えるなど、伝えることの順序を考えている。</p>	◎		<ul style="list-style-type: none"> ・筆者が最も伝えたい段落を見付け、同じ内容の段落が他にもないか探してみるよう助言する。 ・筆者が伝えたい段落が2つ必要か考えることで、文章の構成について考えることができるようにする。 ・文章の構成は、伝える魅力によって変わるので、自分の選んだ魅力に合った文章の構成を考えるよう助言する。 <p>思②：「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。</p> <p>【観察、リーフレット、伝え方のひみつブック】</p>
4	10・11 検証授業 ②	<p>目標：教材の読みを生かし、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学習課題を確認する。 <p>課題 読みを生かして、日本文化の魅力が伝わるリーフレットを完成させるにはどうしたらよいのだろう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2 「伝え方のひみつブック」を参考にしながら同じ日本文化を選択した友達とグループになり、リーフレットを読み合っ てアドバイスし合う。 3 友達にもらったアドバイスカードをもとに修正し、リーフレットを仕上げる。 4 学習を振り返る。 <p>まとめ 日本文化の魅力が伝わるリーフレットを完成させるには、読み手が読みやすい表現や構成の工夫をして、自分の考えが伝わるように書く。</p>	◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を生かしてリーフレットを作成することができたかを推敲し、アドバイスし合う時間であることを確認する。 ・「書き方お助けシート」や「伝え方のひみつブック」を使いながら、推敲していくよう促す。 ・どこをどのように工夫したのか説明し合うことで、推敲する観点を明確にする。 ・気が付いたことは、アドバイスカードに書き込むようにする。 <p>○ 態①：友達のリーフレットを推敲し、アドバイスできているか見取り、つまづいている児童には、チェックカードの項目に沿ってリーフレットを読み、その上でアドバイスするよう助言する。</p> <p>【カード】</p> <p>思①：教材の読みを自分の表現に生かし、引用を用いたり、図や写真を用いたりしてリーフレットを作成している。</p> <p>【リーフレット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本文化の魅力がより伝わるリーフレットを完成させるため

						に、どのようなことを意識すればよかったのか尋ねることで、キーワードを挙げるができるようにする。
12	<p>課題 読み手にとって興味を引きやすく、読みやすい表現や構成はどのようなものがよいだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分とは違う日本文化を選択した友達とグループになり、魅力を伝えるための工夫を発表し合いながら、リーフレットを交流する。 友達のリーフレットのよい点を工夫発見カードに書いて、交換する。 <p>まとめ 読み手に語りかけるような表現や、リズムがよい表現、書き手の考えが伝わるよう、伝えることの順序が考えられた構成がよい。</p> <p>振り返り 単元を通して、読み手が読みやすく、自分の考えが伝わる表現の工夫することが大切だと分かった。これから他の文章を書くときに生かしたい。</p>			◎	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を生かしてどのような工夫をしたのか説明しながら交流することで、読み手に日本文化の魅力がより伝わるリーフレットになっているか考えながら読むことができるようにする。 表現の工夫をしたことで、どのような効果があったかを工夫発見カードに書き込むよう促す。 日本文化の魅力がより伝わるリーフレットを完成させるために、これまでどのような学習をしてきたのかを児童に確認する。 総合的な学習の時間の調べ学習について言及し、本単元で学んだことを生かして見直すことができないか、助言する。 <p>知①：語りかけや実況中継のような言い表し方や体言止めなど表現の工夫に気付いている。 【カード、振り返り】</p> <p>◎ 態①：単元全体を振り返り、リーフレット作りで学んだことを今後の学習活動に生かそうとしている。 【振り返り】</p>	